

先進事例検索システム

事例No.	3289
公表年度	R6
団体の属性	町村
団体名	茨城県境町

事例区分 (大)	行政改革
-------------	------

事例区分 (小)	ICT
-------------	-----

事例種類	DX
------	----

事例内容・タイトル

「駐車場シェアサービス」の導入による花火大会開催時の交通課題の解決

出典

地方自治研究機構 先進事例調査研究（令和6年度）

「駐車場シェアサービス」の導入による花火大会開催時の交通課題の解決

取組のあらまし

取組団体 茨城県境町

取組内容 「利根川大花火大会」で発生する交通諸課題に対し、「駐車場シェアリングサービス」を導入することで解決を図る取組

推進体制 1名（令和6年度）

予算等 0千円（令和6年度）

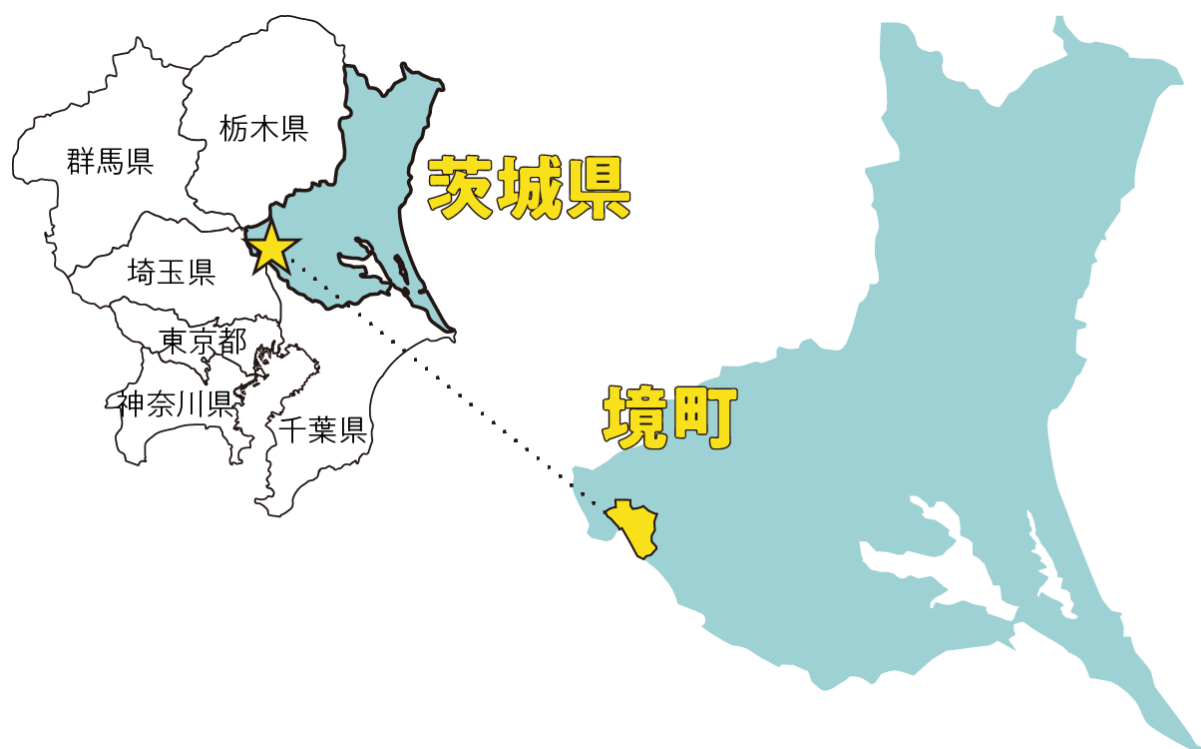
1 茨城県境町の概要

人口 2万4,637人 令和6年1月1日現在（住民基本台帳人口）

職員数 161人 令和6年4月1日現在（一般行政部門）

総面積 46.59km² 令和6年1月1日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1 茨城県境町の位置図



出所：境町ホームページ

2 取組の背景・目的

（1）花火大会の開催における諸課題

境町で開催されている「利根川大花火大会」は、様々な花火競技会で内閣総理大臣賞をした経歴がある全国屈指の花火師たちが参加し、約 30,000 発を打ち上げる全国でも有数の大規模な花火大会である。打ち上げ数を引き上げてから来場者が急増し、例年 20 万人以上にのぼるため、大会当日には不正駐車や渋滞などの交通課題が発生し町内に混乱が生じたことをきっかけに、様々な問題が顕在化した。

境町内には鉄道駅が存在せず、町外の最寄り駅から花火大会会場までの公共交通手段が少ないため自家用車での来場者も多い。そのため花火大会当日の早朝から駐車場確保のための車両が殺到し、不正駐車や入庫待ちの車両による渋滞での混乱が発生しており、2024 年問題によるバスの運行本数の減少で公共交通機関での来場手段が減少し、一層の混乱が生じることが懸念される状況となるなかで、地域住民からは花火大会開催へ消極的な意見も挙がるようになっていった。

また、駐車場が花火大会会場内（有料観覧席付近の河川敷）に設置されていたことで、渋滞や混雑による混乱が起きている状態で事故や二次災害が発生した場合の対応などについても問題意識を持っていた。これらの諸課題の原因となっている渋滞による混乱を解消するために、現在の駐車場設置場所の代替場所を検討していた際に「駐車場シェアリング」という着想を得たことがきっかけで、境町は「軒先パーキング」を運営する軒先株式会社（以下「軒先」という。）と連携し独自の「駐車場シェアサービス」を開始した。

図表1 利根川大花火大会パンフレット



出所：第 37 回利根川大花火大会特設サイト

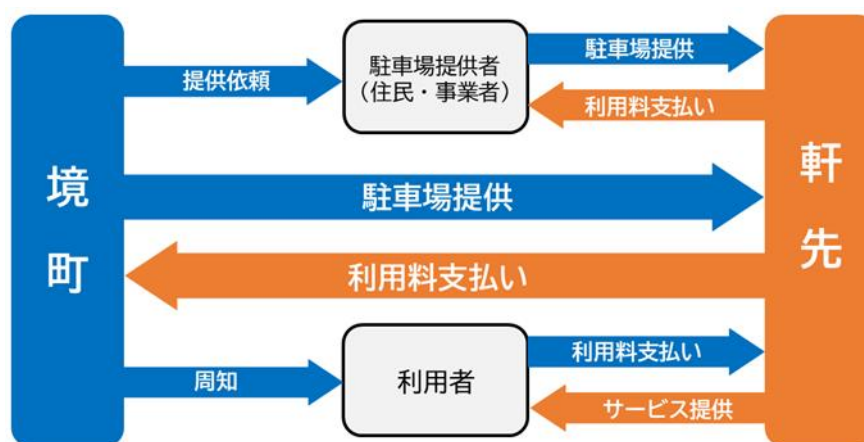
3 取組内容

(1) 駐車場シェアサービスの取組概要

「軒先パーキング」は、新たな駐車場のシェアシステムで、駐車場不足と遊休地をマッチングし、既存の空いている土地や駐車スペースを事前予約制の有料駐車場として貸し出していることで、既にある資産を活用しながらコストをかけずに交通課題の解消を目指すことが可能になるという仕組みである。駐車場提供者にとっては、初期費用ゼロで空きスペースを貸出し収益化できること、事前予約のオンライン決済のため直接の金銭のやり取りが不要であることなどのメリット、利用者にとっては、事前に予約ができることで、知らない土地で空いている駐車場を探すことへの不安感を払拭できるなどのメリットがある。

本取組の企画から開始までは、わずか6か月の期間しかなかったため、いかに民間から駐車場を提供してもらうかが重要であった。本取組を広く周知するために、地元事業者や青年会議所会員等で構成されている「利根川大花火大会実行委員会」（以下「実行委員会」という。）の会員が、町が作成したチラシと併せて駐車場シェアリングによる金銭的インセンティブ等のメリットを住民に紹介した。実行委員会が花火大会会場の近隣住民と良好な関係を築いていたこともあり、取組に賛同した住民からの駐車場の提供の増加につながった。

図表 2 軒先パーキングの仕組み



出所：当機構作成

(2) 課題解決に向けた創意工夫の取組

境町は、渋滞や混雑といった交通課題を解消するための創意工夫として、以下のア～ウの取組を段階的に展開した。

ア 公式駐車場を事前予約制にし、有料化

これまで来場した順に入庫の案内をしていた公式の無料駐車場の入庫待機車両による渋滞・混乱を解消するため、27 拠点 2,829 台分の公式駐車場すべてを軒先パーキング利用での事前予約制の有料駐車場に設定した。

イ 軒先パーキングを活用した駐車場を用意

駐車場不足による不正駐車を防ぐためには、提供できる駐車場を増やすことも重要である。民間から駐車場を提供いただき、小規模の駐車場を多拠点に設置。合計で130箇所・約1,500台分の駐車場を確保した。

ウ 有料観覧チケット保持者に対し、駐車場の優先予約を実施

公式の無料駐車場では、有料観覧チケットの有無に関わらず来場者順に駐車をしていたため、有料観覧チケット保持者分の駐車場が不足するという事態が発生していたが、「軒先パーキング」の導入により、有料観覧チケット保持者は、割安な価格で公式駐車場を優先予約することが可能となった。

4 成果・課題

(1) 取組の成果

民間提供の駐車場を複数拠点に確保したことで、駐車場不足や一極集中による渋滞を緩和することができた。また、事前予約で駐車場の確保ができ、自家用車での来場が増加したことで、最寄り駅と会場間を運行するシャトルバスの乗客が減少したことで、運行本数や拠点数の減少に繋がったほか、公式駐車場が完全予約制となったことでの駐車場の管理体制も縮小し、運営スタッフの業務負担やコストの削減に寄与した。取組開始以前にあった有料観覧チケット保持者が駐車場を確保できないことへのクレームも、有料観覧チケット保持者が公式駐車場を優先予約できるようになったことでほぼ解消した。

持続的な花火大会運営にあたって財源確保は喫緊の課題であったが、軒先パーキングの導入によって、公式駐車場利用料の一部を警備費用や会場設営費用などの運営コストに充てることができるようになったため、新たな財源確保の手段を確立することができた点は、大きな成果である。

そのほか、駐車場を提供する住民には、利用者へ自主的に飲食物のサービスを提供する動きも見られることから、花火大会や地域の魅力の向上やシビックプライドを高めることにも繋がった。

(2) 今後の課題

令和6年度の花火大会への来場者数は過去最高を記録したことで、公式・民間設置の駐車場を増加しても供給が追いつかず、渋滞の発生が見られたため、より広いエリアへの普及促進が求められる。また、会場付近の駐車場を確保された有料観覧チケット保持者が花火の打ち上げ開始時間に訪れることで、駐車場へ向かう車両と会場へ向かう来場者による混雑や渋滞が発生する要因となったことから、有料観覧チケット保持者の駐車場所を再考し、駐車場の配置を最適化するなどの運営上の工夫が求められる。

関連・参考資料

境町ホームページ「境町観光協会」

<https://www.sakaimachi.jp/tonegawa-fireworks-festival.html>

境町ホームページ「第37回利根川大花火大会特設サイト」

<https://www.sakai-hanabi.com/access/>

軒先株式会社ホームページ

<https://parking.nokisaki.com/>

一般社団法人シェアリングエコノミー協会「第1回 全国シェアリングシティ大賞」

<https://sharing-economy.jp/ja/20240423>